

※（ ）内は、該当する主な中期計画No.を示す

分野	コロナが要因で拡充した取組	コロナが要因で中止・延期・縮小した取組と対応状況
教育	<ul style="list-style-type: none"> ●遠隔授業のノウハウの共有 (No.11) FD研修において、遠隔授業方法等のノウハウを共有 ●学生支援の取組強化 (No.23) これまでの取組に加え、UPIの全学実施、学習環境整備支援金など大学独自の経済支援、新入生サポートセンターの開設等 	<ul style="list-style-type: none"> ●対面授業の原則中止 原則遠隔授業を実施（2学期はフォロー科目など一部対面再開） ●派遣留学の中止・延期 (No.9) 派遣留学プログラムの募集を継続して実施し、渡航再開に備え待機（派遣留学決定者数：137名） ●対面による広報活動の縮小 (No.17,26) 代替として、WEBオープンキャンパス等、オンラインによる広報を強化 ●入学試験の実施における制限 (No.25) 教室定員確保のための試験日数増、学内の動線確保、マスクの着用義務化など感染対策を徹底して入学試験を実施 ●対面による就活イベントの縮小 (No.29,31,49) ※インターンシップ等 オンラインと対面を併用し、企業説明会や各種ガイダンスなど就職支援を継続 ●その他、i-Designコミュニティカレッジの履修中止 (No.22) 等
研究		<ul style="list-style-type: none"> ※国際プロジェクト等が中止・縮小（受託事業等）
社会貢献		<ul style="list-style-type: none"> ●対面による地域活動の制限 (No.44) 8月までは地域活動を全面中止。9月以降は、18プロジェクト中13プロジェクトが、学長許可のもと地域活動継続（コロナ禍でも、プログラム参加者は過去最高の528名） ●受入留学生の入国制限 (No.46) 1学期は前年度から受け入れている留学生16名を対象にプログラム実施 2学期は、13名がオンラインで留学プログラムを開始（11月に11名が入国） ●高度技術者育成など国際プロジェクトの中止・縮小 (No.50) オンラインを活用して、現地の協力も得ながら活動を継続 ●その他、市民団体と連携した留学生と地域との交流中止 (No.47)、 大学コンソーシアム関門など大学間連携の中止 (No.51) 等
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ●オンラインを活用した広報強化 (No.62) 大学公式SNS開設、国センのHPリニューアル、WEBオープンキャンパス、受験生応援サイト等、オンラインを活用した広報強化 ●ICT環境など学修環境の整備 (No.63,65) Moodleなど遠隔授業のための基盤整備、PC設置教室や学内無線LANの拡充、連携教室の整備等 ●危機管理体制の強化 (No.69) 緊急対策本部会議のもとで、感染状況に応じた迅速かつ適切な判断 	<ul style="list-style-type: none"> ●自主財源の確保（外部研究資金等） (No.58) 国際プロジェクトの中止・縮小により、受託事業等の外部資金獲得額が大幅に減少したが、科研費は法人化以降最高の獲得額 ●認証評価の受審延期 (No.60) 認証評価受審における全学的な体制整備が難しく、受審を1年延期（2022年度受審）